

ウイング

Mar. 2026 No.14

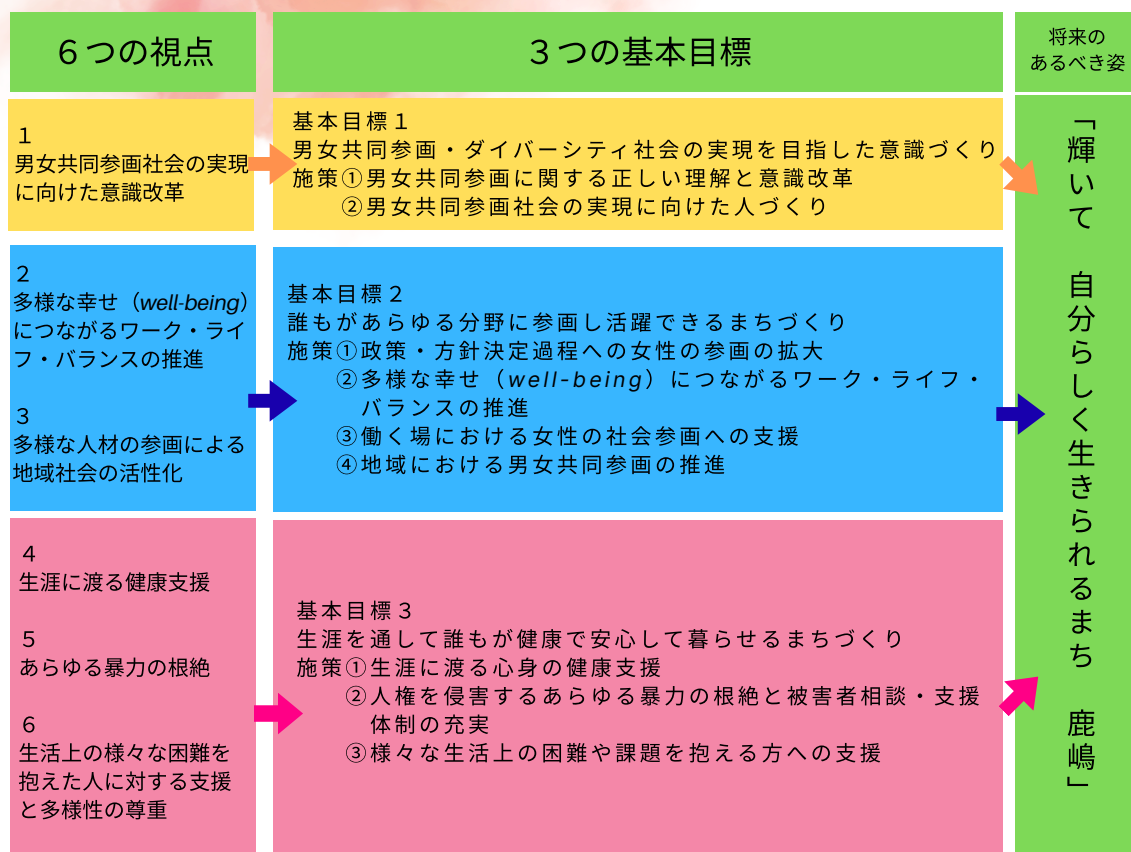
第4次鹿嶋市男女共同参画計画を策定しました。

鹿嶋市では、男女共同参画の推進を図るため、「鹿嶋市男女共同参画計画」を5年ごとに策定しています。このたび、鹿嶋市男女共同参画推進委員会を年3回開催し、アドバイザーとして茨城大学 豊崎仁美氏を迎えて審議を行い、令和8年度から令和12年度までを計画期間とする「第4次鹿嶋市男女共同参画計画」を策定しました。

本計画が目指すのは、市民一人一人が多様性を認め、尊重し合い、年齢、性別、国籍等の様々な違いによる差別や区別なく、人と違うからと排除されない社会。個性と持てる力を発揮し、自らの意思で自分らしい生き方を選択し、その生き方に自信と誇りを持ち、誰もが生き生きとあらゆる分野で活躍できることです。

互いに支え合い、多様性に富んだ豊かで活力あふれる、持続可能なまちづくりのため、第3次計画から引き継ぐ「6つの視点」に基づき、様々な取り組みを進めていきます。

推進にあたっては、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を担い、ともに男女共同参画を進めていくことが重要です。コミュニケーションと相互の信頼を深めながら、それぞれができることから一つずつ行動を起こし、「輝いて 自分らしく生きられる まち」を一緒に創っていきましょう。



多様な幸せ(well-being) って何だろう？

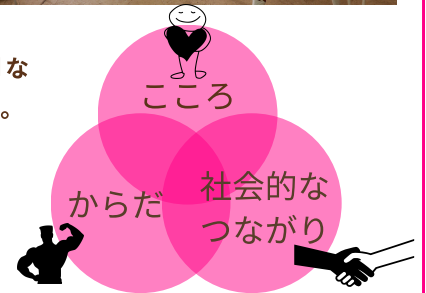
第4次男女共同参画計画では、6つの視点の一つとして「多様な幸せ(well-being)につながるワーク・ライフ・バランスの推進」を掲げています。

well-being(ウェルビーイング)とは、身体的・精神的・社会的に「良い状態」を表し、確立した定義のない幅広い概念で、幸せは人それぞれ、そのときの状況によっても異なるなど、多様な幸せがあります。

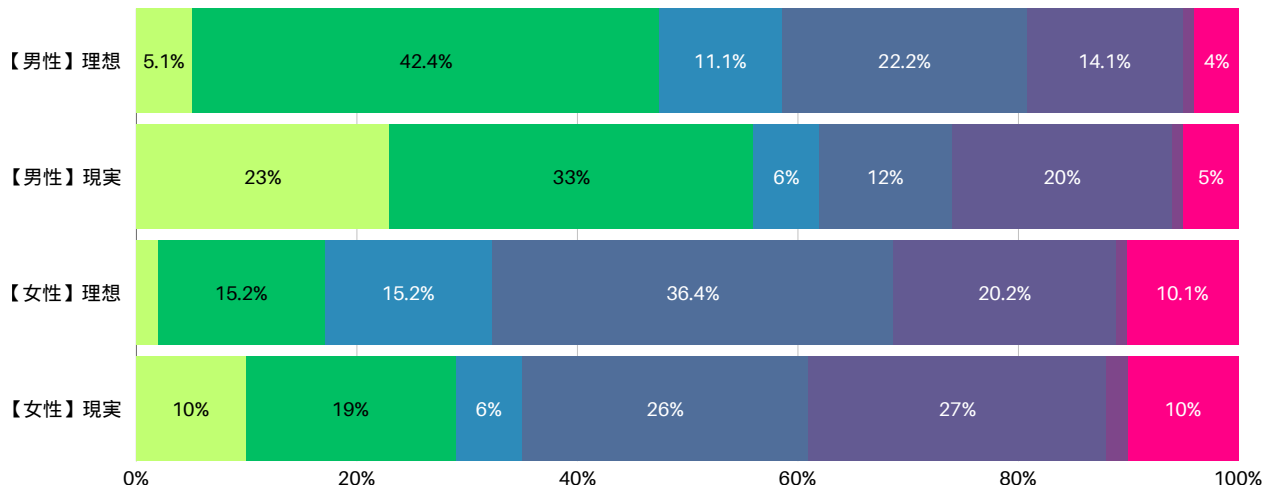
仕事や家庭、個人や地域も含め、どの分野においても良い状態とは何かを意識し、誰もが、どのライフステージにおいても、心豊かな人生・多様な幸せが実感できる社会の創造を目指す取り組みが求められています。

忙しさの原因は、人それぞれ。子育てや介護、通院、学び直し、地域の役割など、生活の形も多様です。大切なのは「完璧」ではなく、続けられるペース。今の自分に合う整え方が、未来の安心にもつながります。

ワーク・ライフ・バランスを めぐる状況



- 1 仕事を優先したい/している
- 2 仕事を優先しつつ、生活も優先したい/している
- 3 生活と仕事の優先度は同じにしたい/同じである
- 4 生活を優先しつつ、仕事もしたい/している
- 5 生活を優先したい/している
- 6 学生のため学業を優先したい
- 7 わからない



「令和6年(2024年)市民意識調査」では、理想では「仕事も生活も大切にしたい」人が多い一方、現実には「仕事や生活のどちらかを優先」していることがうかがえます。男性は、仕事優先(「仕事を優先」+「仕事を優先しつつ生活も」)が理想47%、現実56%(+9ポイント)。一方で女性は、理想では生活優先(「生活を優先しつつ仕事も」+「生活を優先」)が56%と多く、現実でも53%と高い水準です。社会全体がより個人の価値観や主観的な幸福感を重視する方向へとシフトしていることも、一因として考えられます。

「バランスを取りたいのに難しい...」と感じるのは、あなただけではありません。

高校生意識調査

25年後の鹿嶋で、どんな毎日を 送りたい？ - 高校生の声 -

【調査概要】

鹿嶋市では、第四次鹿嶋市総合計画において、25年後の市の将来像を「Colorful Stage Kashima」と設定して、その実現に向けた施策、事業を推進しています。この将来像に向かって進めているかを確認するため、アンケート調査を実施しました。（政策推進課所管）

【目的】

市内に通う高校生が将来のライフスタイルをどのように想像し、鹿嶋市についてどのように思っているかを調査するため

【実施期間】 令和8年1月

【対象】 市内高校に通う高校2年生（約700名）

*鹿島高校、鹿島灘高校、鹿島学園高校、清真学園高校

【実施時期】 令和8年1月

【回答数】 558/732名（回答率76.2%）



アンケート結果の一部を抜粋してご紹介します。

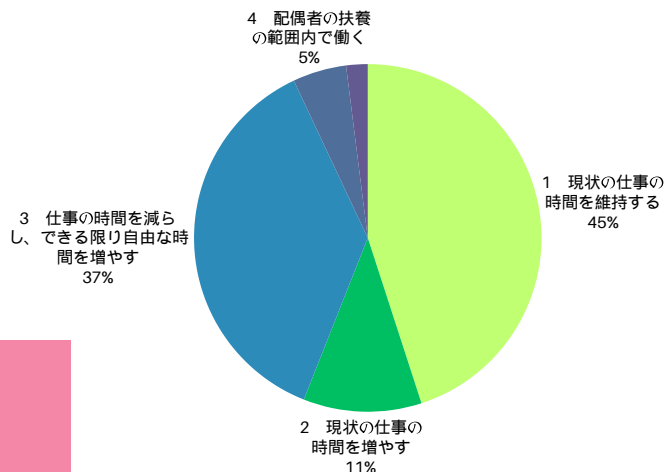
【質問】

あなた自身の25年後の生活のイメージについてお伺いします。

25年後に鹿嶋市に住んでいるとすれば、どのような日常生活を送りたいと思いますか。暮らし方のイメージについて、（ワーク・ライフ・バランスに）あてはまるものを選んでください。

25年後の生活のイメージ ワーク・ライフ・バランス

- 1 現状の仕事の時間を維持する
- 2 現状の仕事の時間を増やす
- 3 仕事の時間を減らし、できる限り...
- 4 配偶者の扶養の範囲内で働く
- 5 その他



高校生意識調査では、多くは「現状の仕事の時間を維持する：45%」で今の時代の働き方を想定していることが分かります。高校生の段階では、「ほどほどに働く」イメージを持つ人が多いことがうかがえます。「仕事の時間を減らし、できる限り自由な時間を増やす：37%」で約4割がこちらを選んでおり、将来像として余暇・趣味・休養・家族や地域・自分の時間を重視する傾向が読み取れます。25年後に鹿嶋市で暮らすとしたら、仕事の時間は「増やす」より「今くらい」や「少し減らして自由時間も大切にしたい」という回答が多数でした。

若い世代ほど、「生活の充実」の感覚を持っている傾向となっており、学生ぐらいまでは「生活充実」の視点がしっかり息づいているところがあります。そのような中で、社会に出ると現実を感じやすい場面が増えてくる現状があるため、だれもが自分らしい毎日をつくるために、多様な幸せ（well-being）につながるワーク・ライフ・バランスを、地域全体で考えていくことが大切です。

一人ひとりの「ちょうどいい」を大切に、暮らしを少しずつ整えていきましょう。



キラキラ人

見~つけた！

このコーナーでは、自分らしい生き方を実践し、キラキラ輝いている方を紹介しています。今回は、大川 和流 さんにお話を伺いました。



大川和流さん NARU OKAWA

鹿嶋市出身。高校時代は私立藤枝順心高等学校サッカー部の主将。2024年1月、全日本高校女子サッカー選手権大会で3連覇を達成。現在は大学でスポーツ教育を学びながら、競技と学業の両立に励む。

Q&A

Q サッカーをはじめようと思ったきっかけは何ですか？

家族でカシマサッカースタジアム（メルカリスタジアム）に足を運び試合を観戦する時間が、幼い頃から大好きでした。スタンドを埋め尽くす観客の熱気の中で、「いつかこの場所で、自分もサッカーをしたい」と胸が高鳴ったことを、今でも鮮明に覚えています。幼少期からサッカーに触れる機会に恵まれ、気が付けば毎日ボールを蹴ることが当たり前前の生活になっていました。

Q サッカーをしていて、やりがいを感じるのはどんなときですか？

私にとってサッカーの魅力は、ゴールや勝利だけではありません。仲間と同じ時間を過ごし、同じ苦しさを乗り越え、その先で一つの瞬間をつかみ取ることにあります。うまくいかない日々が続いても、互いに声を掛け合い走り続けた時間。思うような結果が出なくても、誰かのために体を張り、最後まで戦い抜く姿。そうした積み重ねが試合のワンプレーに表れた瞬間、サッカーを続けてきて良かったと心から感じます。仲間の全力が自分の原動力になり、自分の一歩が仲間を支える。個ではなく、チームとして闘えること。その一体感と責任の中に、私を感じるサッカーのやりがいがあります。

Q これから挑戦してみたいことや、将来の夢・描いているビジョンがあれば、教えてください。

高校時代、夏のインターハイと冬の選手権で日本一という目標を達成しました。大学で更なるレベルアップを目指し、これからという時期に膝の怪我を負い、これまで3度の手術を経験しました。長いリハビリの中で苦しい時間も多くなりましたが、それでも「サッカーが好きだ」という気持ちの根幹が揺らぐことはありませんでした。将来については、競技復帰してから少しずつ考えていきたいと思っています。

Q サッカーをやっている子どもたちに、「こんなことを大事にしてほしい」というアドバイスがあれば、お願いします。

ミスをしないサッカー選手なんていません。失敗は上達するために欠かせない大切な経験です。結果だけに一喜一憂せず、昨日の自分より少しでも前進できたか、自分自身の成長を大切にしてほしいと思います。失敗を恐れず、たくさんチャレンジしてください。

Q 市民の皆さんに向けて、一言メッセージをお願いします。

私を育ててくれた「サッカーのまち鹿嶋」を、心から誇りに思っています。将来は、何らかの形で鹿嶋の女子サッカーの発展に携わっていきたくて考えています。市民の皆さんにも、ぜひ女子サッカーに興味を持ち、応援していただけたら嬉しいです。